

URIII 期ドレヘム出土の行政経済文書における 日付表現について

峯 正 志

On the Date Expression of the Ur III Economic Texts from Drehem

Masashi MINE

Abstract:

In the Ur III economic texts from Drehem, the following two different types of date expression are used:

- i) $u_4-X-kam$
- ii) $u_4-X\ ba-zal$

In this paper, I found that these are not used at random, but show chronologically different distribution. The conclusion I reached is as follows:

- 1) The type of documents is relevant to the choice of date expression. "šū ba-ti" documents take " $u_4-X-kam$ " type. "i-dab₅" documents take " $u_4-X\ ba-zal$ " type in Šulgi's reign, but take " $u_4-X-kam$ " type in and after Amarsuen's reign. "ba-zi" documents can take both types.
- 2) " $u_4-X\ ba-zal$ " type is relatively older than " $u_4-X-kam$ " type.

1 はじめに

現在のイラクの南部地方で、世界最古の文明であるシュメール文明が生まれた。彼らの現代文明への貢献には様々なものがあるが、その中でも最も重要なものに、文字の発明がある。彼らはその文字を用いることによって、現在の我々の文明と同様な高度な行政経済機構を運営してきた。我々の手元には、彼らの残したおびただしい量の行政経済文書があり、それによって我々は、4000年以上前の彼らの日常生活を窺うことができる。例えば、それらの行政経済文書には多くの場合年月日が書かれているが、現在の研究者はそれによって、ある人物が何年何月何日にどういうことをしたかということまで、知ることができるのである。

さて、シュメールの行政経済文書に見られるそのような日付表現には、いくつかの異なった類型がある。それらは、一見自由変異のように見えながら、実は、文書の書かれた年代

によって分布が異なることがあるという事実を、筆者は峯（1990）において指摘した。それはニップール出土の行政経済文書に見られる現象であったが、本稿では、それと類似した現象が、ドレヘム出土の行政経済文書においても見られることを指摘してみたい¹⁾。

2 日付表現の類型

本稿における「日付表現」の定義を書いておく。それは、文書中に現われる年月日のうち、「日」の部分を表す表現のみを指す。

シュメール語における日付表現には次のようなものがある。

- i) $u_4-X-kam$ ²⁾
- ii) $u_4-X\ ba-zal$ (/ba-ta-zal, ba-ra-zal)³⁾
- iii) $u_4-X\ zal-la$ ⁴⁾

これ以外の日付表現は在証例が少ない。ドレヘム文書で見られるのは、この内、i)とii)だけである。

3 日付表現の分布

本稿では、ドレヘム文書を対象に、上で述べたi)とii)の分布を調べてみた。

この調査で明らかになったことは、次の2点である。

- 1) 文書の種類によって分布が異なっている。
- 2) $ba-ta(/ra)-zal$ 型の方が $u_4-X-kam$ 型より相対的に古い。

以下、文書の種類ごとに分布がどのように異なるかということを順に述べてみたい。そこで、文書を、用いられている動詞によって次の3つに分類し、どちらの表現が用いられているかを調査した⁵⁾。

- i) $\check{s}u\ ba-ti$ 文書
- ii) $i-dab_5$ 文書
- iii) $ba-zi$ 文書

以下に、調査結果を記す。

3. 1 $\check{s}u\ ba-ti$ 文書

この文書に関しては、いずれの王の治世においても、ほとんど例外なく $u_4-X-kam$ 型が用いられる。2例のみ $u_4-X\ ba-zal$ 型が見られるが、これはともに通常の $\check{s}u\ ba-ti$ 文書と異なって、受け取った品物が死んだ家畜でなく、大麦 (475) と金 (344) である。この2例については、なんらかの理由による例外と考えてよい。従って、この文書については、 $u_4-X-kam$ 型が用いられると言ってよさそうである。

3. 2 i-dab₅ 文書

この文書に関しては、次のような、年代による使い分けの傾向が見られる。つまり、シュルギの治世においてはもっぱら ba-zal 型が見られ、それ以降になるとほとんどの例で u₄-X-kam 型が見られるという傾向である。今回調べたかぎりでは、ba-zal はアマルシン5年以降には用いられていない。そこで、シュルギ38年からアマルシン5年までの使い分けの様子を図に示すと次のようになる⁶⁾⁷⁾。

	ba-zal	u ₄ -X-kam
š38	S57;	
š39		
š40	363;486	
š41	T36;T52;T73;	
š42	S58;T37;T38;T39;	398;466
š43		S9;
š44	7;S10;T42;T43;T53;	
š45	496;S60;S61;T74;T75;	S64(R);
š46	10;14;	16(R)S65(R)
š47	21;23;T48;	508(R)T55(R)T56(R);
š48		515(R);517(R);T58(R);T59(R);T78;
AS1		27;28;30;32;34;38;420;S11;T79;T80;T81; T82;T83;T84;T85;T86;T87;T88;T89;T90;
AS2		35;39;41;46;48;51;53;54;55;57;59;374; 522;S12;S13;S53;S54;T175;T167;T93; T94;T95;T91
AS3		61;62;64;69;424;527;S14;S15;S16;T96; T97;T98;T99;
AS4		71;72;76;77;78;79;80;82;83;86;87;88;89 91;93;94;96;97;98;99;100;102;377;S17; S18;S19;S20;S21;S22;S23;S24;T171; T172;T173;T168;T169;T170;T100;T101 T102;T103;
AS5	114;	103;104;105;106;107;109;110;111;112; 113;115;116;119;120;121;122;124;125; 127;128;130;532;533;538;539;S25;S26;

AS5	S27;S28;S29;S30;S31;S32;S33;S34;S35; S36;T143;T146;T147;T148;T149;T150; T151;T152;T153;T154;T155;T156;T157; T158;T118;T119;T120;T121;T122;T123 T124;T125;T126;T127;T128;T129;T130 T131;T132;T133;T134;T135;T136;T137 T138;T139;T140;T141;T142;T104;T105 T106;T107;T108;T109;T110;T111;T112 T113;T114;T115;T116;T117;T60;T61; T62;T63;T64;T65;T66;T67;T68;T69; T70;
-----	--

3. 3 ba-zi 文書

この文書に関しても、i-dab₅ 文書と同様に、年代による使い分けの傾向があるようである。ただし、i-dab₅ 文書に比べると、ba-zal 型の使用頻度は格段に高い。次にその使い分けの様子を図示しよう。

	ba-zal	u ₄ -X-kam
š39	<u>S133</u> ;T181;	
š40	T182;183;T184;	
š41	T186;	
š42	T188;T187;	196;
š43	S136;S137;	
š44	S138;S139;S140;	
š45	S141;198;	T199;
š46	15;467;502; <u>S142</u> ;T189;T190;T200;T231;	
š47	323;337;T224;T191;T193;T194;T202;	509;511;512;514;T221;T222;T226;T228;
š48		26;518;519;T229;T230;
AS1	33;	29;
AS2	S143;T232;T233;	37;40;43;47;49;56;
AS3	70; <u>423</u> ;529; <u>S144</u> ; <u>S145</u> ;	63;66;528;S146;S147;T234;T235;T236;
AS4	74;S149;S154;T267;	73;81;92;101;531;S148;S150;S151;S155; T237;T238;T239;T240;T241;T258;T259;

AS5	S156; <u>T245</u> ;	117;129;S157;T242;T243;T244;T246; T247;T248;
AS6	S158;T249; <u>T250</u> ;T251;	
AS7	138;430;S159;S160; <u>T253</u> ;T254;	134;136;
AS8	<u>164</u> ;165;170; <u>173</u> ;178;402;477; <u>547</u> ;S162; S165;T255;	152;157;169;172;183;403;479;480;S163;
AS9	199;382;S169;S170;S171;T257;T260; T261;	200;201;434;S166;S167;S168;T256;
śS1	<u>213</u> ;217;218;435;436;	215;216;353;437;550;
śS2	<u>221</u> ;442; <u>551</u> ;559;	440;444;558;T262;
śS3		561;562;T173;
śS4	<u>567</u> ;571;	237;
śS5	245;569;S174;	
śS6		454;
śS7		342;S175;S176; <u>T265</u> ;
śS8		390;580;
śS9		252;460;462;578;581;582;584;586; <u>587</u> ;
IS1		255;260;598;600;
IS2		262;397;601;603;604;607;608;
IS3		

ここで、気が付いた点を二つあげてみたい。一つめは、ba-zal 型の表現を持った文書に多く śa-Nibru^{ki} という記載が見られることである。上の図では、数字に下線を施すことによって、その記載の見られる泥章を示している。見てすぐわかるように、この記載のある泥章は ba-zal 型をとる。2 例のみ u₄-X-kam 型が見られるが、それは既に ba-zal 型が用いられなくなっているシュシン 7 年および 9 年である。現在のところ理由はよく分からないが⁸⁾、このような傾向があることは明らかであろう。ちなみに、3. 2 で扱った i-dab₅ 文書の中に見られたアマルシン 5 年の例外に見える文書にも、この表現が用いられている⁹⁾。

二つめは、シュルギの治世における分布についてである。シュルギの治世における zi-ga 表現にはいくつかの類型があるが、そのうち ba-zal 型を取るのは

zi-ga (ki-)人名 (-ta)

のように、zi-ga の後に人名が来る場合だけである。人名を取らない場合には u₄-X-

kam型が現れる。しかし、アマルシン以降の場合はすべてki-人名-ta ba-ziのように人名と共に現われるため、ここでの表には、人名を伴わないzi-gaは入っていない。従ってu₄-X-kam型を取るzi-gaも確かに存在することはする。しかし、いずれにしても、この明らかな使い分けは説明を要する現象である。

4 結論

以上見てきたように、ドレヘム文書における日付表現には次の2つの傾向が見られる。

- 1) 文書の種類によって、どちらの表現をとるかについての傾向が異なっている。文書ごとに述べると、šū ba-ti 文書ではほとんどの例でu₄-X-kam型が用いられる。i-dab₅ 文書では多くのものはu₄-X-kam型をとるが、シュルギの時代にはba-zal型も用いられる。ba-zi 文書ではどちらも多く用いられる。
- 2) ba-zal型とu₄-X-kam型の年代による分布を比較すると、ba-zal型の方がu₄-X-kam型より相対的に古いと言える。

5 おわりに

用例数が比較的少ないため、細かいところではまだまだ修正の余地があると思われるけれども、以上述べてきたような傾向が在ることは間違いないと思われる。今後、用例を増やしていくことによりさらに詳しい分析をするとともに、ニップール・ドレヘム以外の地域の調査も続けていきたい。

註

- 1) 今回の調査ではあまり多くの例を調べることができなかったため、本稿は中間報告のようなものとなっている。もっと多くの例を用いて詳しく調査したものは、別の機会に発表する予定である。しかし、本稿で見られる傾向はおそらく間違いないと思われる。
- 2) u₄は「日」の意。それに序数詞を作る接尾辞-kamを接辞したもの。「第X日」という表現である。
- 3) 動詞zal「(日)が過ぎる」に、接頭辞ba-が付いた形。ba-ta-zalは、奪格名詞に呼応する接中辞-ta-を伴った形。ba-ra-zalは、その異形。
- 4) 主に、シュルギ・アマルシン時代のニップールで見られる表現である。峯(1990)参照のこと。
- 5) ba-zi 文書には、šū ba-ti やi-dab₅ がともに現われている場合があるが、それらはすべてba-zi 文書に含めている。また、Kang(1972:p.243)の言うように、動詞zi「支出する」は、シュルギの治世ではzi-ga、アマルシンの治世以降ではba-ziとして現れるので、どちらも同じ表現として扱った。
- 6) ba-zal型がアマルシン5年以降に現われえないと言っているわけではない。今回の調査ではこれより後の時代の例が見られなかったというだけで、あくまで紙面の都合上割愛したにすぎない。

7) 本稿の図表に用いた略号は次の通り：

š = シュルギ AS = アマルシン šS = シュシン IS = イビシン

泥章を表す数字は、数字だけのものは Keiser (1971)、S のついたものは Kang(1972)、T のついたものは Archi & Pomponio (1990) のものを示す。(R) は、日付表現が欄外に示されていることを表す。なお、表中の数字は必ずしも順番に並んでいないことをお断わりしておく。

8) ba-zal 型のよく用いられていたニップールの影響があるかもしれないが、そう考えた場合、どうしてシュシン 9 年の例が u_4 -X-kam 型をとっているのかを説明するのが難しくなる。ニップールでは、シュシンの治世もイビシンの治世も ba-zal 型が多用された。

9) しかし、同じ i-dab₅ 文書でも、T79 (AS1) は ša-Nibru^{ki} が現われているにもかかわらず u_4 -X-kam 型をとっている。i-dab₅ 文書は、あくまで u_4 -X-kam 型をとるものと思われる。

引用文献

Archi, A. & Pomponio, F. (1990) *Testi Cuneiformi Neo-Sumerici da Drehem. No.0001-0412*. Cisalpino Istituto Editoriale Universitario. Milano.

Kang, S.T. (1972) *Sumerian Economic Texts from the Drehem Archive*. Sumerian and Akkadian Cuneiform Texts in the Collection of the World Heritage Museum of the University of Illinois Vol.I. University of Illinois Press. Urbana, Chicago, London.

Keiser, C.L. (1971) *Neo-Sumerian Account Texts from Drehem*. Yale University. New Haven and London.

峯 正志 (1990) 「URIII 期ニップール出土の行政経済文書における日付表現について」
『ニダバ』 No.19, p.53~60